

あけぼの

第32号

令和4年2月16日発行

教委人権教育課

☎229-3253 FAX 229-3017

人のぬくもりや、温かさを感じられるつながりを

皆さんはこれまで、誰かと何気ない会話をしたり
思いを聞いてもらったりして気持ちが楽になったこ
とはありませんか。

コロナ禍の2年間は、友人や知り合いと直接顔を
合わせて話す機会がなくなったり、地域行事が中止
となり一つのイベントをみんなでやり遂げる達成感
を得る機会が減ったりしました。そのように「人」
を直接感じる事が少なくなったからこそ、今まで
当たり前のようにあった「人とのつながり」や「人
との関わり」がどれほど大切なものであったかに気
付いた人もいるのではないのでしょうか。

「居場所」という言葉を耳にすることがあります。
居場所とは、一般的な場所を指すのではなく、
「心を休めたり、安心していられたりする関係性」
そのものではないかと思います。そのような関係性
を生み出す人との関わりが少なくなり、困ったこと
を誰にも言えず、一人で抱え込んでしまうことが多
くなったと感じている人もいるかもしれません。

私たちは、以前のような「人とのつながり」を再
構築したり、新たな「人との関わり」を構築したり
するために何を大切にしていけばよいのでしょうか。

人との関わりの中で前を向くことができたり、さ

まざまなことに気付けたりするのは大人だけではあ
りません。子どもたちは学校という一つの社会の中
で、たくさんの人と出会うことを通して、知識だけ
でなく、ものの見方や考え方、感じ方も学んでいま
す。子どもたちは、その学びの中から「人と関わり
ながら生きていくことの楽しさ」を実感し、「未来
を切り拓く力」を身に付けていきます。

これらのことは、学校の中だけで感じたり、育ま
れたりするものではありません。家庭や地域、そし
てさまざまな人との関わりの中でも育まれていきま
す。下を向いて歩いていた子が、地域の人に優しく
声を掛けてもらって笑顔になり、自分のことを大切
に思ってくれる人の存在や、人とのつながりや温か
さを感じたとき、その笑顔はどんどん輝いていきま
す。

「人のぬくもりや、温か
さを感じられる社会」にし
ていくために、今回のあけ
ぼので紹介する子どもたち
の学びや考え、気付きを通
して、私たち大人も一緒に
考えてみませんか。



人権コラム

人と人とのつながりが 感じられる社会に

全国の児童相談所が対応した児童虐待相談件
数は、令和2年度、初めて20万件を超えまし
た。また警察庁によると、令和2年に児童虐待
で命を落とした子どもは61人にも上ります。

児童虐待は、家族間のストレス、経済的な問
題、育児への不安など、さまざまな要因が引き
金になることがあります。さらには、親自身も
悩みや不安を一人で抱え込んでしまい、誰にも
相談できずに孤立して困っていたり、精神的に
追い詰められていたりして、何らかの支援を必
要としている場合があります。こうしたこと
は、どこの家庭でも起こり得るもので、児童虐
待の防止は社会全体で解決すべき問題です。

その背景には、育児との両立を困難にしてい
る労働条件や労働環境をはじめ、都市化、核家
族化などに伴い、社会的孤立が強まることで、
これまでのような親族や地域などとのつながり
の中で支え合って行ってきた育児が難しくなっ
ていることが考えられます。

また厚生労働省は、新型コロナウイルス感染
症の拡大による生活環境の変化と児童虐待との
関連性についても注視していくとしています。

私たち一人一人がお互いのことを思い合い、
人と人とのつながりを紡いでいくことが、安心
して子育てできる社会を
つくり、虐待を防止し、
かけがえのない命を守る
ことにつながるのではな
いのでしょうか。

